



北海道神経難病研究センター
平成25年度活動報告

第3号

(平成25年4月～平成26年3月)

北海道神経難病研究センター

目 次

1. 平成 25 年度活動報告について
2. センターの概要
3. 平成 25 年度活動報告
4. 第 2 回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会
5. 第 1 回神経難病緩和医療研究会講演会
6. 海外留学記
 - 1) 田代 淳：「Surfer's Myelopathy とインスブルック」
 - 2) 野中道夫：「AMAZING THINGS ARE HAPPENING HERE” :Eleanor and Lou Gehrig MDA/ALS Center 研修記」

1. 平成25年度活動報告について

神経難病患者が適切な診断、治療を受けられる医療体制や神経難病患者を取り巻く環境は徐々に改善されてきました。しかしながら、神経難病の多くは依然として、その病態が解明されておらず、神経難病患者をとりまく環境も広大な北海道においては必ずしも全て行き届いているとはいえない。

神経難病に関する研究、治療は、遺伝子科学など基礎科学的分野での発展は目覚ましいが、実際の患者を主体とした臨床研究の遅れは否めません。

北海道神経難病研究センターは、平成23年7月に神経難病に関する病態解明および学術的治療研究、看護をはじめとしたコメディカルによる多角的臨床研究、神経難病患者を中心とした医療環境に対する調査・研究を行い、これら神経難病に対する総合的かつ包括的な研究を推進し、北海道における神経難病医療と環境の発展を図ることを目的に設立されました。

北海道神経難病研究センター平成23年度活動報告、同平成24年度活動報告を報告して参りましたが、今回、平成25年4月～平成26年3月までの活動を平成25年度活動報告としてまとめました。各部門での種々の活動のほか、第2回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会、神経難病緩和医療研究会講演会の開催、2名の研究員の海外留学の支援を行い、海外留学状況は留学記として掲載した。

北海道神経難病研究センターでは、神経難病患者の医療に係る皆様の力を結集し、新しい神経難病医療社会の構築をめざし真摯に研究・支援に邁進したいと考えております。

これまでの多方面の方々よりのご支援下さりましたことを深謝申し上げますとともに、今後とも引き続き、ご支援下さりますよう、お願い申し上げます。

平成26年4月

専務理事・センター長 森若文雄
代表理事 濱田晋輔

3. 平成25年度活動報告

(1) 神経難病臨床研究部門

臨床研究部門は、各部門と連携し、臨床研究を展開し、学会・論文発表を行った。

学会発表

1. 武井麻子、田村 至、石田千春、濱田晋輔、相馬広幸、本間早苗、濱田啓子、森若文雄、田代邦雄: 脊髄小脳変性症の高次脳機能障害、感情障害と運動障害の関係, 第93回日本神経学会北海道地方会, 2013/9/14
2. 濱田晋輔、相馬広幸、本間早苗、濱田啓子、武井麻子、森若文雄、田代邦雄、石津明洋: 痙攣発作を呈した異所性灰白質の1成人例～病理学的考察～, 第93回日本神経学会北海道地方会, 札幌, 2013/9/14
3. 金村智紀、西海頭一郎、中城雄一、本間早苗、武井麻子、森若文雄: ストレッチポールエクササイズが脊髄小脳変性症患者のバランス能力に与える即時効果について, 第34回札幌市病院学会, 札幌, 2014/02/01
4. 小室祐子、加藤恵子、武井麻子、森若文雄: 脊髄小脳変性症患者一例に対する書字自主練習の試み, 第34回札幌市病院学会, 札幌, 2014/02/01
5. 本間冬真、加藤恵子、武井麻子、森若文雄: 進行性核上性麻痺患者の転倒に対する視覚的フィードバックの効果, 第34回札幌市病院学会, 札幌, 2014/02/01
6. 新藤和季、加藤恵子、濱田晋輔、森若文雄: パーキンソン症候群患者の小字症に対する視覚的CUEを用いた書字訓練について, 第34回札幌市病院学会, 札幌, 2014/02/01
7. 野村優美、西村日和、西海頭一郎、中城雄一、本間早苗、森若文雄: パーキンソン病患者の体幹回旋トレーニングが歩行パフォーマンスに与える即時的効果について, 第34回札幌市病院学会, 札幌, 2014/02/01
8. 武井麻子、田村 至、相馬広幸、濱田晋輔、本間早苗、濱田啓子、森若文雄、田代邦雄: テトラベナジン投与により、著しいすくみ足の悪化、高次脳機能の改善を認めたハンチントン病の1例, 第7回パーキンソン病・運動障害疾患コンGRESS, 京王プラザホテル(東京), 2013/10/10
9. 武井麻子、佐藤美和、中城雄一、小泉裕文、横山晴美、田澤乾、横澤利幸、高橋貴美子、矢崎一雄、土井静樹、蛸島八重子、日向寺秀雄、本間早苗、相馬広幸、石井いつみ、石田千春、下川満智子、黒田清、矢野千里、森若文雄、田代邦雄: 神経難病緩和医療研究会多施設多職種による経験共有の試み, 緩和医療研究会, 2013/11/07

著書・総論・解説

1. 濱田晋輔:長期経過におけるパーキンソン病の困難症状への対応 (1) 疼痛, Journal of Clinical Rehabilitation, 22(4):355-360, 2013
2. Nanri K, Niwa H, Mitoma H, Takei A, Ikeda J, Harada T, Okita M, Takeguchi M, Taguchi T, Mizusawa H:Low-Titer Anti-GAD-Antibody-Positive Cerebellar Ataxia, Cerebellum, 12(2):171-175, 2013
3. 田代邦雄:話題:鏡像書字,脳血管障害と神経心理学 第2版、医学書院(東京),印刷中,2013
4. 平山恵造、田代邦雄:平山病—発見から半世紀の歩み—,診断・治療・病体機序 文光堂(東京),印刷中,2013
5. 濱田晋輔、森若文雄、田代邦雄:Foix-Alajouanine 症候群、亜急性壊死性脊髄炎,神経症候群(第2版)、別冊日本臨牀,417-422,2013/12/20
6. 武井麻子、田村 至、佐々木秀直:遺伝性脊髄小脳変性症に伴う高次脳機能障害,神経内科,80(1):15-23,2014
- 7.

検診・医療班

1. 本間早苗:平成 25 年度在宅療養支援計画策定・評価事業,(岩内保健所),岩内町,2013/06/26
2. 武井麻子:第 40 回難病患者・障害者と家族の全道集会(医療班),北海道難病連,かでの 2・7 札幌,2013/08/03
3. 武井麻子:2013 年度チャリティークリスマスパーティー(医療班),北海道難病連札幌支部,札幌サンプラザ(札幌),2013/12/15
4. 本間早苗:在宅療養支援計画策定・評価事業,(岩内保健所),岩内町,2013/12/2
5. 本間早苗:平成 25 年度利尻礼文 3 町在宅難病患者訪問検診,(稚内保健所),礼文町、利尻町、利尻富士町,2013/7/24-26

講演会

1. 本間早苗:パーキンソン病に治療とその問題点,北見医師会学術講演会,北見,2013/09/27
2. 森若文雄:難病の基礎的知識—神経難病の理解—,難病患者などホームヘルパー養成研修事業(江別保健所主催),札幌,2013/12/12

(2) 神経難病リハビリテーション部門（中城雄一）

リサーチカンファレンス（RC）、研修会、症例検討会のほか、第2回及び第3回北海道神経難病リハビリテーション研究会 講演会を開催した。

	タイトル	開催日	発表者	参加人数	備考
1	RC	4月16日	日比 純太郎	22	4月16日 『パーキンソン病患者の体格(BMI)とADL能力』
2	症例検討会	4月24日	新藤 和季 金村 智紀 野村 優実	24	4月24日 『トイレ、ベッドでの立ち上がり着座動作における転倒リスク軽減を検討した症例』 『玄関から車までの介助歩行方法を検討した症例』 『立位アライメント改善に難渋し、右後方へのバランス能力向上に方向転換した』
3	研修会	4月25日	萬井 太規氏	27	4月25日 『わかる！ 伝わる！ 出来る！ プレゼンテーションの基礎知識』
4	研修会	4月26日	藤咲 盛也氏 グラクソ・スミスクライン 株	30	4月26日 ボトックスの概略、治療の実際
5	RC	5月20日	神原 美里 日比 純太郎	27	5月20日 『SCD患者の在宅整備について』
6	研修会	5月24日	杉本 昌子 パンフィック・サプライ(株)	32	5月24日 『Vトラックを使用した車いすシーティングの紹介』
7	症例検討会	5月29日	小室 裕子 日比 純太郎	26	5月29日 『著動作・リーチ動作向上に向けアプローチを行ったパーキンソン症候群の一例』 『動作緩慢さ改善に向けたいざり・立ち上がり動作へのアプローチ』
8	RC	6月18日	坂野 康介	26	6月18日 『SCDIにおける歩行能力とSARAの関連～SCA3、SCA6、MSAとの比較』
9	症例検討会	6月27日	金村 智紀 本間 冬馬	29	6月27日 『MS患者の自宅内転倒防止にアプローチした症例』 『上衣更衣動作時の右下肢の協調動作獲得を目標に介入した症例』
10	研修会	6月28日	萬井 太規氏	30	6月28日 姿勢反応～予測的姿勢制御に着目して～
11	伝達講習	7月10日	菅原 由衣	34	7月10日 第8回 IT機器レンタル事業『作業療法士が行うIT活用支援説明会』
12	伝達講習	7月11日	守田 えりい	26	7月11日 第13回摂食・嚥下リハビリテーション 北海道地区研修会
13	症例検討会	7月17日	新藤和季 鳥羽悠斗	26	7月17日 『パーキンソン症候群患者の小字症に対する視覚CUEを用いた書字訓練について』 『在宅生活に向けて杖歩行獲得にアプローチした症例』
14	座談会	7月24日		53	7月24日 神経難病にかかわるセラピストの座談会
15	RC	7月25日	日比 純太郎	25	7月25日 『パーキンソン病患者におけるBMIとADL能力の関係性について』
16	症例検討会	8月15日	守田 えりい 小林 阿佑美	21	8月15日 『コミュニケーション機会が多く正確な構音での発話獲得に介入した症例』 『疼痛軽減により活動量向上を目指した症例』

	タイトル	開催日	発表者	参加人数	備考
1	RC	4月16日	日比 純太郎	22	4月16日 『パーキンソン病患者の体格(BMI)とADL能力』
2	症例検討会	4月24日	新藤 和季 金村 智紀 野村 優実	24	4月24日 『トイレ、ベッドでの立ち上がり着座動作における転倒リスク軽減を検討した症例』 『玄関から車までの介助歩行方法を検討した症例』 『立位アライメント改善に難渋し、右後方へのバランス能力向上に方向転換した』
3	研修会	4月25日	萬井 太規氏	27	4月25日 『わかる！ 伝わる！ 出来る！ プレゼンテーションの基礎知識』
4	研修会	4月26日	藤咲 盛也氏 グラクソ・スミスクライン 株	30	4月26日 ボトックスの概略、治療の実際
5	RC	5月20日	神原 美里 日比 純太郎	27	5月20日 『SCD患者の在宅整備について』
6	研修会	5月24日	杉本 昌子 パンフィック・サプライ(株)	32	5月24日 『Vトラックを使用した車いすシーティングの紹介』
7	症例検討会	5月29日	小室 裕子 日比 純太郎	26	5月29日 『著動作・リーチ動作向上に向けアプローチを行ったパーキンソン症候群の一例』 『動作緩慢さ改善に向けたいざり・立ち上がり動作へのアプローチ』
8	RC	6月18日	坂野 康介	26	6月18日 『SCDIにおける歩行能力とSARAの関連～SCA3、SCA6、MSAとの比較』
9	症例検討会	6月27日	金村 智紀 本間 冬馬	29	6月27日 『MS患者の自宅内転倒防止にアプローチした症例』 『上衣更衣動作時の右下肢の協調動作獲得を目標に介入した症例』
10	研修会	6月28日	萬井 太規氏	30	6月28日 姿勢反応～予測的姿勢制御に着目して～
11	伝達講習	7月10日	菅原 由衣	34	7月10日 第8回 IT機器レンタル事業『作業療法士が行うIT活用支援説明会』
12	伝達講習	7月11日	守田 えりい	26	7月11日 第13回摂食・嚥下リハビリテーション 北海道地区研修会
13	症例検討会	7月17日	新藤和季 鳥羽悠斗	26	7月17日 『パーキンソン症候群患者の小字症に対する視覚CUEを用いた書字訓練について』 『在宅生活に向けて杖歩行獲得にアプローチした症例』
14	座談会	7月24日		53	7月24日 神経難病にかかわるセラピストの座談会
15	RC	7月25日	日比 純太郎	25	7月25日 『パーキンソン病患者におけるBMIとADL能力の関係性について』
16	症例検討会	8月15日	守田 えりい 小林 阿佑美	21	8月15日 『コミュニケーション機会が多く正確な構音での発話獲得に介入した症例』 『疼痛軽減により活動量向上を目指した症例』

32	座談会	11月21日		58	11月21日	病院紹介Part2(北海道医療センター、西円山病院)、グループワーク
33	RC	11月28日	畑中 茉紀	22	11月28日	『パーキンソン病患者の介護者における介護負担感について』
34	RC	12月24日	畑中 茉紀	21	12月24日	『パーキンソン病患者の介護者における介護負担感について』
35	予演会	1月14日	徳永 紀子 小室 裕 子 新藤 和季 本間 冬 真 金村 智紀 野村 優 美	30	1月14日	『頸椎装具(カラー)装着がガム咀嚼時の顎関節運動と筋活動に与える影響』 『ストレッチボールエクササイズが脊髄小脳変性症患者のバランス能力に与える即時効果について』 『脊髄小脳変性症患者一例に対する書字自主練習の試み』 『進行性核情勢麻痺患者の転倒に対する視覚的フィードバックの効果』 『パーキンソン症候群患者の小字症に対する視覚的CUEを用いた書字訓練について』 『パーキンソン病患者の体幹回旋トレーニングが歩行パフォーマンスに与える即時効果について』

RC:リサーチカンファレンス

(3) 神経難病看護・ケア部門

1) 研修

院外研究

日 時	研修テーマ	主 催	参加者
25年5月8日 ～10日	新人看護職員研修教育担当者研修会	北海道看護協会	1名
5月12日	説明責任がはたせる記録・実践フォーカスチャ ーティング 2013	JFC 協会	8名
5月13日	感染対策セミナー	日本感染管理支援協会	2名
5月26日	北海道看護研究学会	北海道看護協会	6名
5月29日～31日	第54回日本神経学会学術大会	日本神経学会	1名
6月8日	難病医療研修会	北海道難病医療ネ ト ワーク連絡協議会	3名
6月9日	ワーキンググループ基礎セミナー	J 感染制御ネットワーク 北海道感染管理ベスト プラクティス研究部会	2名
6月29日	スミス・アンド・ネフュー北海道セミナー	スミス・アンド・ネフ ューウンドマネジメ ント	6名
7月6日	今、看護管理者に求められているもの	北海道看護協会 第4支部	1名
7月13日	輸液療法における感染予防 患者に安全に医療を提供するために	サラヤ	2名
8月4日	医療安全管理者「継続講習」 第1回地方フォーラム（札幌）	北海道病院協会	2名
8月24日～25日	第18回日本難病看護学会学術集会	日本難病看護学会	2名
8月31日	看護管理者懇談会	北海道看護協会	1名
8月31日	継続看護に生かせる外来看護業務と外来看護記 録	日総研	1名

9月4日～5日	看護管理Ⅱ	北海道看護協会	1名
9月7日	アサーティブ・コミュニケーション	北海道看護協会 第2支部	1名
9月10日	認知症ケア対象者を深く理解するために	北海道看護協会	1名
9月13日	2013 最新の胃瘻・栄養管理実践セミナー	テルモ	1名
9月19日～20日	看護研究に使える統計学 ～パソコンを使うエクセルコース	北海道看護協会	1名
9月21日	どんなときでもモチベーションを維持するための方法～クレームや職場の人間関係について見方を変えてみよう～	北海道看護協会 第2支部	1名
9月26日	職業支援講習会 ～求人票作成ワンポイントセミナー	北海道看護協会	1名
10月10日～11日	目指せ排泄ケアの達人研修会	北海道看護協会	1名
10月12日	退院調整・在宅療養支援のための交流会	北海道看護協会	4名
10月13日	日本管理学会例会 ナラティブを看護管理に生かす	北海道医療大学大学院 看護管理者石垣 ゼミナール	1名
10月19日	第10回ネスレ臨床栄養セミナー	ネスレヘルスサイエ ンスカンパニー	1名
10月30日	看護補助者のための「倫理について考えよう」研修会	北海道看護協会	2名
11月4日	説明責任がはたせる記録・実践フォーカスチャ ーティング 2013	JFC 協会	5名
11月9日	看護職のメンタルヘルス	北海道看護協会 第2支部	1名
11月9日	第11回北海道感染症対策セミナー（インフルエンザ）	北海道感染対策セ ミナー	1名
11月16日	PDN セミナー2013	PEG ドクターズネッ トワーク	1名
11月19日	口腔ケアの基本を学ぼう	北海道看護協会	2名

11月26日～28日	組織で行う感染管理	北海道看護協会	1名
26年2月15日	言葉とコミュニケーション～これが北海道弁だ べさ～北の国より愛をこめて	北海道看護協会 第2支部	2名
2月15日	レスパイト入院～在宅療養を支えるために	北海道医療センター	3名

延べ34コース 延べ70人

(4) 神経難病医療相談・福祉支援部門（黒田 清）

1) 検診

月 日	参加者	名 称
25年 7月 24-26日	黒田 清	神経難病患者訪問検診～礼文町・利尻町・利尻富士町 (利尻地域保健支所)

2) 講習会

月 日	参加者	名 称
25年4月10日	黒田 清 赤澤千佳子 中山宰歌	シンポジウム ～「生ききる」地域で最期まで過ごしたい 本当に大丈夫？ (札幌市医師会西区・手稲区支部地域ケアに関する研修会)
6月8日	黒田 清 赤澤千佳子 中山宰歌	北海道内におけるコミュニケーション支援の現状 (平成25年度難病医療研修会)
6月22日	木村 愛 赤澤千佳子 中山宰歌	事例検討会 (北海道医療ソーシャルワーカー協会)
6月28日	赤澤千佳子	定期巡回・随時対応型訪問介護看護について (北海道医療ソーシャルワーカー協会)
7月6日	赤澤千佳子	医療ソーシャルワーカー協会実習スーパービジョン研修会 (北海道医療ソーシャルワーカー協会)
7月26日	赤澤千佳子	スモンに関する調査研究班ワークショップ (厚生労働省難治性疾患克服研究事業)
10月24日	黒田 清	医療安全講習会 (札幌市保健所医療政策課)
11月16日	木村 愛 赤澤千佳子 中山宰歌	第15回北海道医療ソーシャルワーカー協会中央5支部合同学会 (北海道医療ソーシャルワーカー協会)
12月12日	黒田 清	「希少性難治性疾患患者に関する医療の向上及び患者支援の在り方に関する研究」班

3) 講義

月 日	講 師	名 称
25年6月6日	赤澤千佳子	北海道大学医学部学生講義 ～MSWの役割 基礎と神経難病領域での実践から学ぶ
9月12日	赤澤千佳子	北海道大学医学部学生講義 ～MSWの役割 基礎と神経難病領域での実践から学ぶ
11月6日	中山宰歌	天使大学看護栄養学部学生講義 ～MSWという職種を知っていますか？

4) ボランティア

月 日	参加者	名 称
25年8月4日	赤澤千佳子 中山宰歌	第40回難病患者・障害者と家族の全道集会・札幌大会 (北海道難病連)

5. 第1回神経難病緩和医療研究会講演会

平成25年11月24日に札幌医師会館で第1回神経難病緩和医療研究会講演会を参加者279名で、開催し、神経難病緩和医療研究会代表武井より神経難病緩和医療研究会立ち上げについての説明がなされ、北里大学荻野美重子先生の「終末期ALSに対する薬物療法の実際」、高橋貴美子先生による「T氏写真の世界」紹介と堀元先生のピアノ演奏、矢崎一雄先生と患者さん・ご家族による「患者さんの視点から見た理想の緩和医療」が話し合われた。



6. 海 外 留 学 記

「Surfer's Myelopathy とインスブルック」

田代 淳

北海道神経難病研究センター 臨床研究員

(インスブルック医科大学神経内科留学中)

皆さんは 'Surfer's Myelopathy' という疾患をご存じでしょうか? 'Surfer's Myelopathy' は、2004 年に Thompson らにより初めて報告された非外傷性脊髄損傷に分類される疾患です (Thompson et al. Spine 29(16):E353-6, 2004). 筆者はこの記念すべき最初の 9 例中の 1 例として報告されています。

2014 年 1 月現在で 60 例程度しか報告のない疾患ですが、最近報告例数が増加してきています。報告例のほとんどは、筆者も含めて初めてのサーフィンでのレッスン中またはレッスン後に、特に何かにぶつかるなどの外傷なく発症しています。発症機序としては、サーフボード上で腹ばいになり背部を過伸展することで、脊髄に虚血を生じると考えられていますが、詳細は未確定です。症状としては、脊髄障害による両下肢の麻痺や感覚障害および膀胱直腸障害を来します。

Thompson らの報告では、「9 例中 8 例は症状が改善したが、1 例のみ対麻痺を残した」とされ、比較的予後は良好とされました。実は、不幸にもその 1 例が筆者でした。その後、症状が改善せず対麻痺を残す例も多く報告され、現在では予後は様々であると考えられています。ハワイからの報告例が多い疾患で日本にはあまり関係ないように思われるかもしれませんが、この疾患は筆者も含めた日本人観光客に多く発症しており、北海道からも症例報告が出されています。

発症機序の詳細が未確定であるため、予防法も推測の域は出ませんが、初めてのサーフィンでは長時間継続しないなど、まずは無理をしないことが重要と考えられています。少なくともハワイなどで初めてサーフィンをする人の一部に、このような疾患が起こりうるのは確かなことですので、皆さんや皆さんのお知り合いで、休暇でハワイなどを訪れるという方がいらっしゃったら、このような疾患が生じることもあると注意喚起をしていただければ幸いです。

さて、筆者は 2001 年 7 月、医師になって 4 年目、北大神経内科入局 2 年目の夏に休暇で訪れたハワイにてこの疾患を発症し、以後、車いす生活をおくっています。2002 年 3 月の退院後、まずは北大神経内科で大学院生として復帰し、徐々に仕事や生活の範囲を拡大してきました。その過程で、多くの方々にお世話になり、ご配慮もいただきましたが、ご迷惑もおかけしました。障害を持ちながら働くということで、悩みは尽きず、落ち込むこともありました。

そして、2013 年 9 月より、北海道神経難病研究センターに臨床研究員として所属させて頂くこととなり、同年 10 月より、オーストリアはインスブルック医科大学神経内科に留学させて頂いております。主にパーキンソン病などの運動障害性疾患に関する臨床研究について学びたいと考え、パーキンソン病の分野では世界的に著名で、大変な親日家でもある、同科主任教授 Werner Poewe 先生にお願いして実現の運びとなりました。



図 1 インスブルック医科大学神経内科 Werner Poewe 教授のオフィスにて (窓からジャンプ台 Bergisel が見えます)

海外留学は学生時代からの夢、憧れでしたが、障害を持つようになって一時は医師も辞めなくてはならな

いと考えたほどでしたので、このたび念願かなって大変うれしく思っています。

インスブルックはオーストリア・チロル州の州都であり、人口 13 万人程度の山あいの街です。その規模からすると大学病院はかなり大きく、神経内科だけで病床数は 100 以上もあります。医師数も神経内科だけで 80 名以上で、Poewe 主任教授以下、多系統萎縮症で著名な Wenning 教授をはじめ、教授だけでも 15 名くらい在籍しており、日本の大学では考えられない大所帯です。



図2 インスブルック中心部を流れるイン川より望むノルトケッテ連峰（市内からケーブルカー、ロープウェイを乗り継いで標高 2,256m まで登ることができます）

大学病院では、臨床研究の他、病棟回診やパーキンソン病専門外来なども見学させて頂いています。パーキンソン病外来での患者さんの症状や診察所見などは、日本での診療経験と大差なく万国共通なのだなと思いましたが、日本とは医療事情が異なるため、治療の選択肢や受診間隔など、違うところも見受けられます。また、舞踏病専門外来や運動失調症専門外来では、日本ではあまり診る機会のない疾患の患者さんの診察を見させて頂いており、大変良い経験となっていると感じています。

オーストリアの公用語はドイツ語ですが、渡航前は英語で何とかできるだろうと半ば高をくくっていました。実際、大学での個々の先生とのコミュニケーションは英語で問題ないのですが、朝 8 時からの神経内科全体ミーティング、現在配属されている研究室のミーティングもすべてドイツ語、もちろん外来や病棟での患者さんとの会話もすべてドイツ語で、最初は全くわかりませんでした。生活面でも、街中のいろいろな標識や掲示物にはドイツ語しか書かれておらず、スーパー等で売っている商品にもドイツ語の次に書かれているの

は英語ではなくイタリア語などのことが多く、大変苦労しました。渡航から半年が経過する現在、当初より少しはわかるようにはなりましたが、依然、言葉には苦労しています。



図3 インスブルック旧市街の中心にある黄金の小屋根（イースターマーケットで賑わっています）

車いす生活という点では、インスブルックは小さな街ですので、買い物など大体のことは車いす自走圏内で済ませることができます。市内の路面電車やバスはすべて低床車で乗降口には渡し板も備え付けられており、乗降の際には運転手や周りの乗客が手助けしてくれるため、車いすでの利用にはほとんど問題ありません。ただ、小さくて古い建物が多いため、街中のちょっとしたお店などは入り口が階段になっているところも多く、そういったところには一人でふらっと入るのはちょっと難しいのが現状です。

また、インスブルックは札幌同様、冬季オリンピックを開催した経験のある街で、周辺には約 80 か所のスキー場があり、まさにスキーの本場といえる土地です。筆者は以前よりチェアスキーをやっていたので、是非本場でスキーをしたいと思い、日本からチェアスキーの道具一式を送ってもらいました。あまり回数に行けませんでした。雄大な景色の中でスキーを楽しむことができ、また、ナイトスキーではスキー場のロッジで、すばらしい雰囲気の中おいしいビールを味わうこともできました。



図4 スキー場 Schlick 2000 山頂付近にて (インスブルック市内から車で 30 分程度で行くことができます)

車いすで単身での外国生活で、思うようにいかないこともあります。こちらの先生方のほか、日本にいる家族をはじめいろいろな方々の支えがあり、こちらでの生活を継続できています。お世話になっている皆さんには、改めてお礼申し上げたいと思います。

今後も、このような貴重な機会を与えられたことに感謝し、こちらでの仕事、生活から多くのものを得て、帰国後の診療や研究に生かしていきたいと考えています。

(北海道医報 2014 年 3 月号 (第 1146 号) 会員のひろばより加筆修正)